

信州大学工学部の高村秀紀と申します。

信州健康ゼロエネ住宅指針の策定に当たり検討を進めてきた「指針検討専門委員会」の委員長としてご挨拶申し上げます。

地球温暖化に起因すると考えられる自然災害が全国各地で頻発するなど、地球環境の変化により人間社会の存続が脅かされています。

その対策として長野県は 2050 年ゼロカーボンの実現に向け、令和元年 12 月には都道府県で初めて「気候非常事態」を宣言するなど、全国的に見てもその取組を先導して進めていると承知しています。

住宅分野では、兼ねてより県で取り組まれていた、「ふるさと信州・環の住まい基本指針」に基づく「気候や風土に適合した質の高い魅力的な信州らしい住まいづくり」の理念をベースに、2050 ゼロカーボンに資するより高い目標に向けた新たな「住まいづくり指針」の策定に向け、長野県が指針検討専門委員会を立ち上げたところ、縁あって委員長として参画し、委員の皆様とともに議論を行ってまいりました。

専門委員会での議論を通じて、住宅の建築に当たり、断熱性能や気密性能について高い性能を確保することは省エネルギー化に向けとても重要な要素です。一方で、信州の恵まれた自然環境と森林資源を活かした建築計画をないがしろにしてはならず、建物性能の確保を検討する前に、それらを最大限活用する検討こそが信州らしい住まいづくりの第一歩であると、改めて感じたところです。

建築関係団体をはじめ多くの関係者の皆様からご協力をいただき、それらを踏まえた議論を経て策定された指針ですが、ここからが 2050 ゼロカーボン実現に向けた新たなスタートです。

大きな目標に向け、県全体が一丸となって信州健康ゼロエネ住宅の普及など不断の取組を進めていただくことを強くお願い申し上げます、私からの挨拶といたします。

信州大学工学部建築学科

教授 高村 秀紀